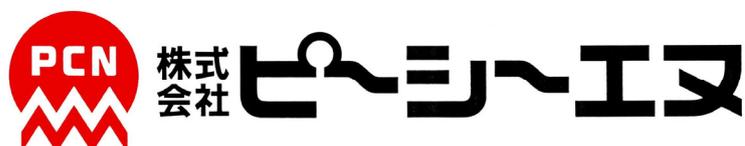
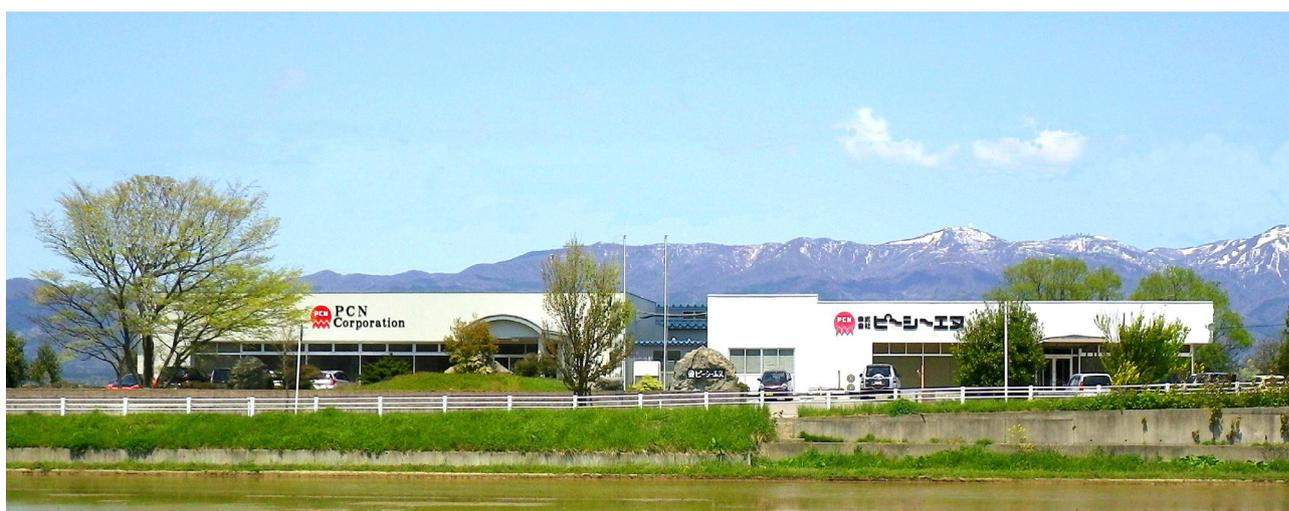


# エコアクション21

## 2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年6月1日～2024年5月31日)

2024年7月5日発行



## 目次

第1章 組織の概要	2
第2章 実施体制	3
第3章 環境経営方針	4
第4章 環境経営目標とその実績	5～9
第5章 環境経営計画の内容 と 環境経営計画の取組結果の評価	10
第6章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	11
第7章 代表者による全体評価と見直しの結果	12
第8章 来年度の環境経営目標と環境経営計画	13
※ 環境経営活動状況(画像)	14

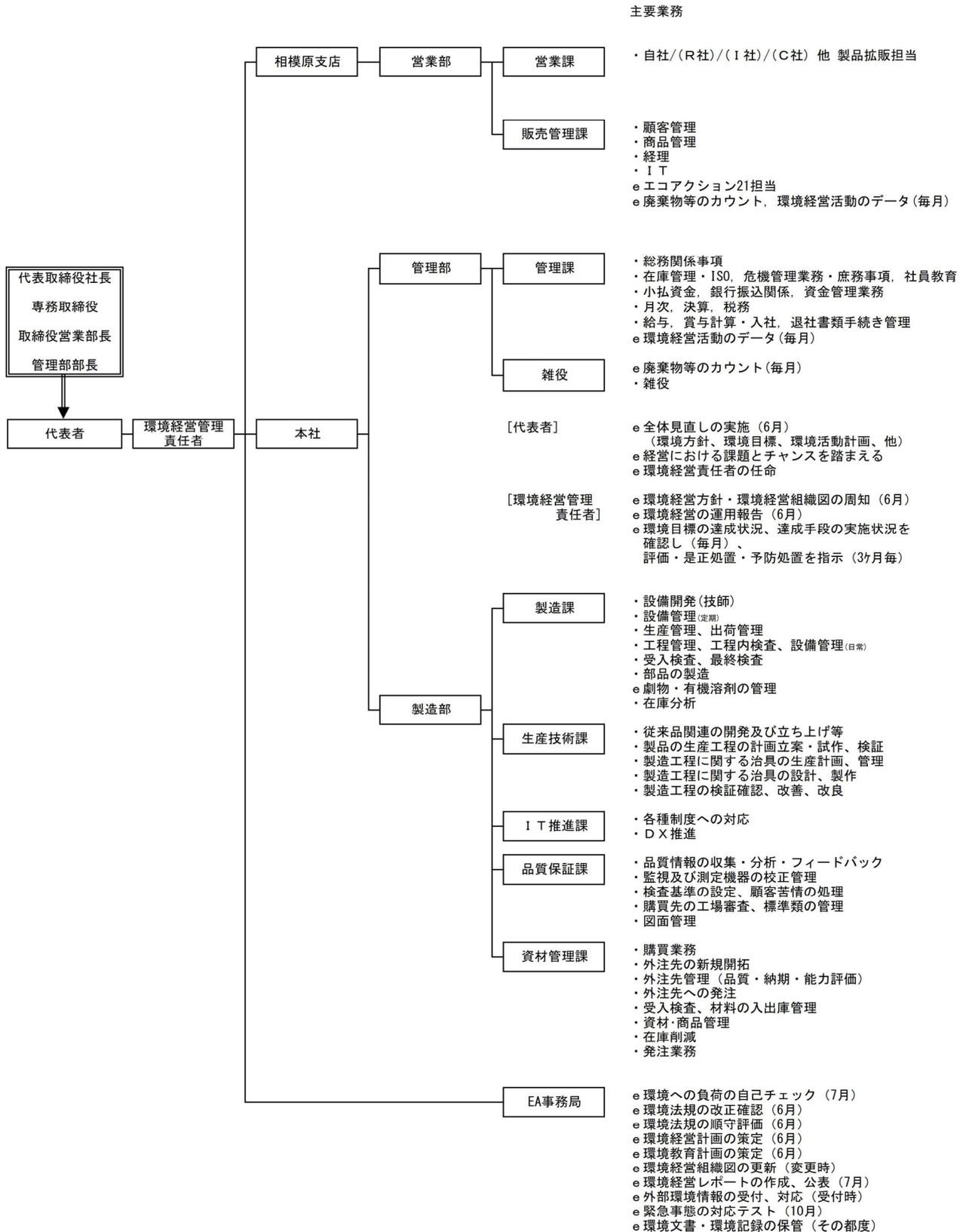




## 第2章 実施体制

対象範囲：全組織，全活動。

### 環境経営組織図



## 環境経営方針

1. 株式会社 ピーシーエヌは、環境保全が最重要課題の1つであることを認識し、抵抗器などの製造及び販売を中心とした事業活動において、「佐渡の空、トキよふたたび甦れ」を夢に佐渡の自然環境を愛する企業として、経営における課題やチャンスをつまみ、環境経営の継続的改善に努めます。
2. 環境への取組の基本的方向を以下に示します。
  - 1) 二酸化炭素排出量を削減します。
  - 2) 廃棄物を削減します。
  - 3) 水使用量を維持管理します。
  - 4) 紙使用量を維持管理します。
  - 5) 化学物質使用量を維持管理します。
  - 6) 環境負荷に配慮した製品を生産及び販売します。
3. 事業活動において関連法規を順守します。

この環境経営方針を全員に周知し、一般にも公開します。



制定2007年 8月30日  
改定2024年 6月19日  
株式会社 ピーシーエヌ  
専務取締役 若林 英則

## 第4章 環境経営目標とその実績

### 1. 基準値と2023年度の環境経営目標と実績

#### 1.1 全社

No	項目	基準値 (2021年度実績値)	目標 実績	2022年度		2023年度		2024年度	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績
1)	二酸化炭素排出量の削減(総量) ※1	99,311 kg-CO <sub>2</sub>	目標	98,318 (-1%)	kg-CO <sub>2</sub>	97,325 (-2%)	kg-CO <sub>2</sub>	96,332 (-3%)	kg-CO <sub>2</sub>
			実績	95,868 (-3.5%)		93,243 (-6.1%)		—	
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり) ※2	6.020 g/個	目標	5.960 (-1%)	g/個	5.900 (-2%)	g/個	5.839 (-3%)	g/個
			実績	4.464 (-25.8%)		5.193 (-13.7%)		—	
3)	水使用量の維持 (人数当たり) ※3	10.5777m <sup>3</sup> /人数	目標	10.5777 (0%)	m <sup>3</sup> /人数	10.5777 (0%)	m <sup>3</sup> /人数	10.5777 (0%)	m <sup>3</sup> /人数
			実績	10.2829 (-2.8%)		10.1240 (-4.3%)		—	
4)	コピー用紙使用量の維持(総量) ※4	342.098 kg	目標	342.098 (0%)	kg	342.098 (0%)	kg	342.098 (0%)	kg
			実績	289.953 (-15.4%)		291.418 (-14.8%)		—	
5)	化学物質使用量の削減目標(有機溶剤使用量の維持) (出荷個数当たり) ※5	0.8358g/個	目標	0.8358 (0%)	g/個	0.8358 (0%)	g/個	0.8358 (0%)	g/個
			実績	0.8731 (+4.5%)		0.9593 (+14.8%)		—	
6)	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持) ※6	不良率削減目標値	目標	0.150	%	0.150	%	—	%
		0.150%	実績	0.167 (+11.3%)		0.047 (-68.7%)		—	

-令和2年度実績- 令和4年01月07日環境省・経済産業省公表，令和4年02月17日一部修正電氣事業者別排出係数の調整後排出係数に基づき，本社工場は東北電力の0.521(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)，相模原支店は東京電力の0.441(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)で計算した値とします。

※1 二酸化炭素排出量の削減(総量)

2021年度(46期)の実績(99,311 kg-CO<sub>2</sub>)を基準値とし，2023年度(48期)の目標値は，基準値の2%以上の削減とします。

※2 廃棄物の削減(出荷個数当たり)

2021年度(46期)の実績(6.020 g/個)を基準値とし，2023年度(48期)の目標値は，基準値の2%以上の削減とします。

※3 水使用量の維持(人数当たり)

弊社の水使用は，手洗い，トイレ，タオル等の洗濯と生産活動以外であり，長く活動を続けていたことから，これ以上の削減は難しいと考えており，2023年度(48期)の目標値は，2021年度(46期)の実績(10.5777m<sup>3</sup>/人数)を基準値として，目標を維持とします。

※4 コピー用紙使用量の維持（総量）

長く活動を続けていたことから、これ以上の大きな削減は難しいと考えており、2023年度(48期)目標値は、2021年度(46期)の実績(342.098 kg)を基準値として、目標を維持とします。

※5 化学物質使用量の削減目標(有機溶剤使用量の維持) (出荷個数当たり)

生産品目及び出庫のタイミングにより、毎月の結果が左右されますが、2022年度(47期)の実績(0.8731g/個)を基準値として、目標を維持とします。

※6 生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減 (SOC管理の体制を維持)

2023年度(48期)目標値は、ISO9001品質目標に連動した値とします。

1.2 本社工場

No	項目	基準値 (2021年度実績値)	目標 実績	2022年度		2023年度		2024年度	
1)	二酸化炭素排出量の削減（総量）	92,315 kg-CO <sub>2</sub>	目標	91,392 (-1%)	kg-CO <sub>2</sub>	90,469 (-2%)	kg-CO <sub>2</sub>	89,545 (-3%)	kg-CO <sub>2</sub>
			実績	90,020 (-2.5%)		87,872 (-4.8%)		—	
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	9.971 g/個 (総量:4.77t)	目標	9.981 (-1%)	g/個	9.772 (-2%)	g/個	9.672 (-3%)	g/個
			実績	6.579 (-34.1%) (総量:3.01t)		7.007 (-29.7%) (総量:2.51t)		—	
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	10.7778m <sup>3</sup> /人数 (総量:291 m <sup>3</sup> )	目標	10.7778 (0%)	m <sup>3</sup> /人数	10.7778 (0%)	m <sup>3</sup> /人数	10.7778 (0%)	m <sup>3</sup> /人数
			実績	10.3704 (-3.8%) (総量:280 m <sup>3</sup> )		10.4444 (-3.1%) (総量:282 m <sup>3</sup> )		—	
4)	コピー用紙使用量の維持（総量）	183.633kg	目標	183.633 (0%)	kg	183.633 (0%)	kg	183.633 (0%)	kg
			実績	190.363 (+3.7%)		190.363 (+3.7%)		—	
5)	化学物質使用量の維持 (出荷個数当たり) …担当:本社工場 ワーキンググループ	0.8358g/個 (総量:400kg)	目標	0.8358g (0%)	g/個	0.8358g (0%)	g/個	0.8358g (0%)	g/個
			実績	0.8731 (+4.5%) (総量:400kg)		0.9593 (+14.8%) (総量:352kg)		—	
6)	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減 (SOC管理の体制を維持)	不良率削減目標値 0.150%	目標	0.150	%	0.150	%	—	%
			実績	0.167 (+11.3%)		0.047 (-68.7%)		—	

### 1.3 相模原支店

No	項目	基準値 (2021年度実績値)	目標 実績	2022年度		2023年度		2024年度	
				目標	実績	目標	実績	目標	実績
1)	二酸化炭素排出量の削減（総量）	6,996 kg-CO <sub>2</sub>	目標	6,926 (-1%)	kg-CO <sub>2</sub>	6,856 (-2%)	kg-CO <sub>2</sub>	6,786 (3%)	kg-CO <sub>2</sub>
			実績	5,848 (-16.4%)		5,371 (-23.2%)		—	
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2.340g/個 (総量:1.20t)	目標	2.317 (-1%)	g/個	2.293 (-2%)	g/個	2.270 (-3%)	g/個
			実績	1.528 (-34.7%) (総量:0.50t)		1.969 (-15.9%) (総量:0.41t)		—	
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	9.8779 m <sup>3</sup> /人数 (総量:72.1m <sup>3</sup> )	目標	9.8779 (0%)	m <sup>3</sup> /人数	9.8779 (0%)	m <sup>3</sup> /人数	9.8779 (0%)	m <sup>3</sup> /人数
			実績	9.9875 (+1.1%) (総量:79.9m <sup>3</sup> )		9.0125 (-8.8%) (総量:72.3m <sup>3</sup> )		—	
4)	コピー用紙使用量の維持（総量）	158.465kg	目標	158.465 (0%)	kg	158.465 (0%)	kg	158.465 (0%)	kg
			実績	99.590 (-37.2%)		101.055 (-36.2%)		—	

\* 弊社の年度は、6月～翌年5月迄です。（環境経営活動期間も同じ。）

1.4 2023年度の考察は、次の通りです。

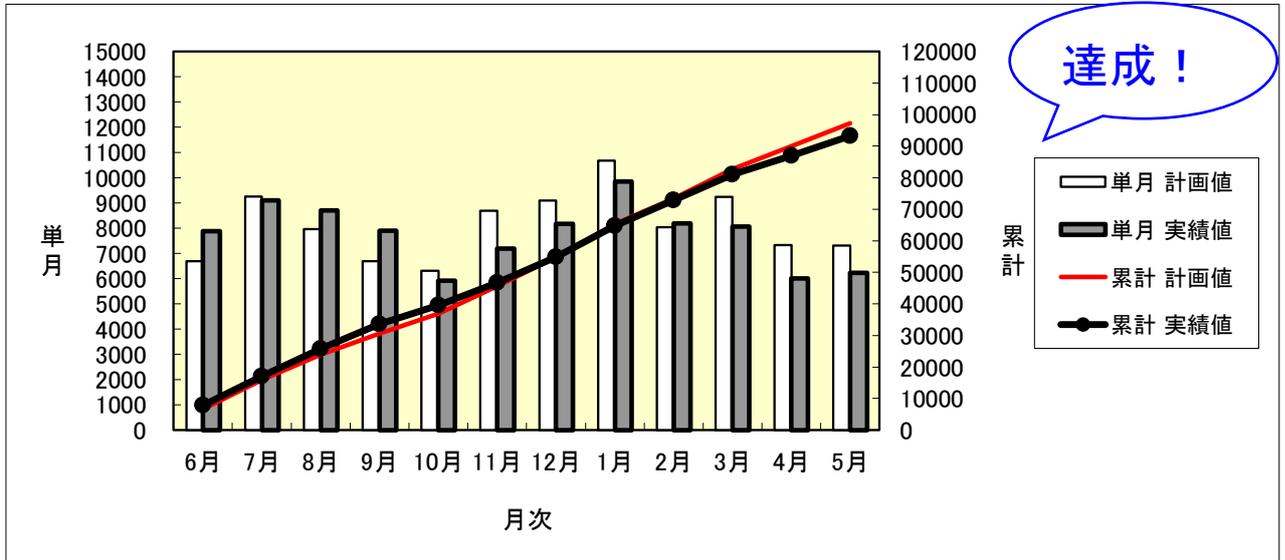
- ① 二酸化炭素排出量の削減目標を達成しました。（総量）  
1月次以降の節電効果が効果が表れ、3月次より本社工場の累積実績値も計画値(目標値)を下回り達成した。
- ② 廃棄物の削減目標を達成しました。（出荷個数当たり）  
7月次 産業廃棄物の排出量が多かった事により単月実績値が増加し、累積計画値を超えたが9月次以降は累計実績値が計画値(目標値)を下回り達成した。
- ③ 上水道使用量の維持目標を達成でした。（人数当たり）  
8月次以降、全社の累計実績値が計画値(目標値)を下回り達成した。さらに、12月まで未達成であった相模原支店も、1月次以降 累計実績値が計画値(目標値)を下回った。
- ④ コピー用紙使用量の維持目標を達成致しました。（総量）  
年間を通して観ると、相模原支店の削減実績により、全社の累計実績値を押し下げ、累計計画値(目標値)を達成している。
- ⑤ 化学物質使用量削減の維持目標は未達成でした。（出荷個数当たり）  
目標設定が原単位であるため、洗浄を必要とする製品の受注数が減少したことにより、実績値が上昇した。これが未達成の原因と考えられる。ただし、総量の実績値では、前年度比-12%であった。次年度も現目標で様子を観る。
- ⑥ 生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減（SOC管理の体制を維持）の目標を達成致しました。  
目標値0.150%に対し、実績値が0.047%であった。2023年度(48期)はポカミス等でのロットアウトが減少し、年間を通じて実績値が累計計画値(目標値)下回り目標値を達成した。

※ 業務改善は経営に即し、環境保全活動に繋がっている。全社員に周知すると共に意識改革を行って活動に取り組む。

【2023年度(48期) 環境経営目標 主要達成状況グラフ】

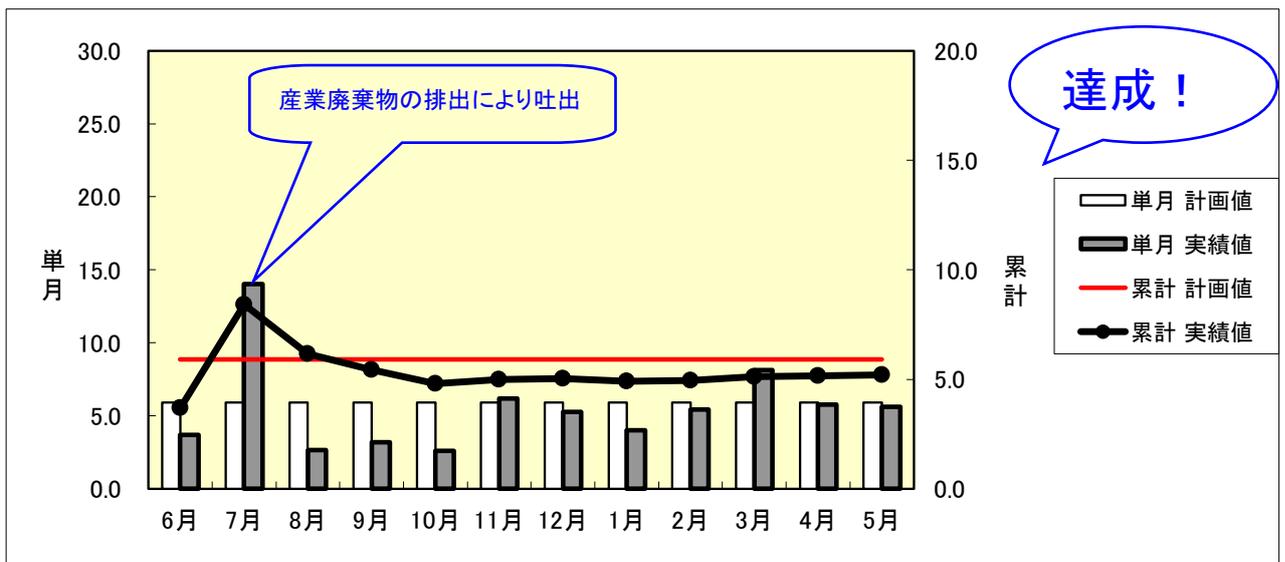
二酸化炭素排出量の削減（総量）

kg-CO<sub>2</sub>



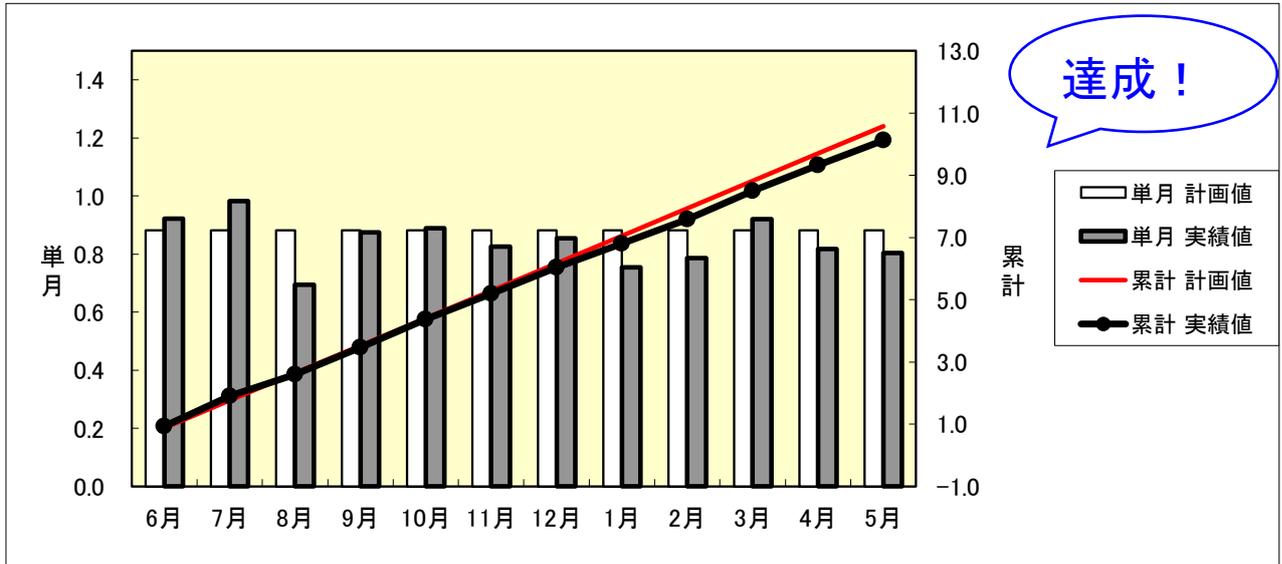
廃棄物の削減（生産個数当たり）

g/個



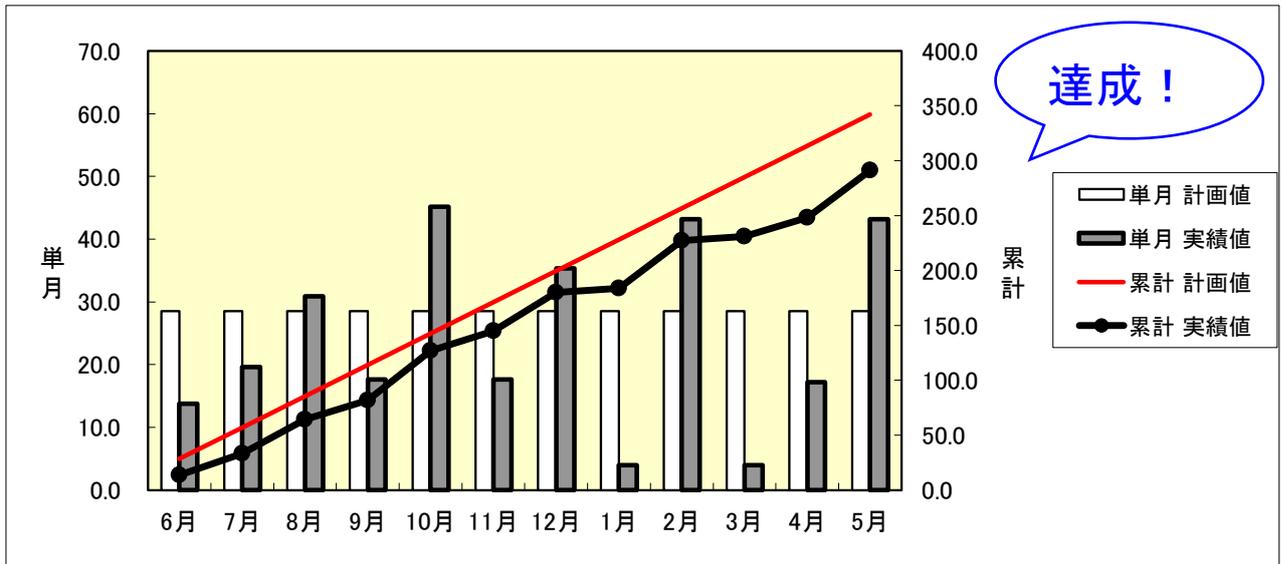
### 水使用量の維持(人数当たり)

m<sup>3</sup>/人数



### コピー用紙使用量の維持(総量)

Kg



## 第5章 環境経営計画の内容 と 環境経営計画の取組結果の評価

No	環境経営目標	環境経営計画の内容	結果・評価
1	二酸化炭素排出量の削減	昼休みに照明を消灯する。使用してない箇所の電気を消す。	○
2		昼休みにパソコンの電源を OFF。	○
3		空調の適正化(冷房 28℃程度, 暖房 20℃程度) の徹底。	○
4		工程, 最終不良率の改善。	○
5		モールド工程 (金型) 予熱の消費電力の削減。	○
6		恒温槽使用の効率化	○
7		照明器具の LED 化を推進	○
8	廃棄物の削減	省エネ冷暖房設備への切り換え推進	○
9		廃プラに混在する新聞紙を分別する。	○
10		分別を推進し, 銅, アルミ等の再資源化をはかる。	○
11		製品切替(RH→FH)による成形条件見直しにて, ポットに残る樹脂量を低減。	○
12		再利用段ボール箱の社内便への使用。	○
13		使用済み段ボール箱の梱包材への再利用。	○
14	水使用量の維持	梱包材等の古新聞紙を再生利用へ。	○
15		ポスターによる節水の啓蒙。	○
16		水洗トイレのタンクへペットボトルを入れ, トイレ用水を節水する。	○
17	コピー用紙使用量の維持	便器(男性) の水排出時間を短くする。	○
18		ポスターによる紙節約の啓蒙。	○
19		プロジェクター等の使用による会議資料のペーパーレス化を推進。	○
20		電子メディア等の利用によるペーパーレス化の推進。	○
21	化学物質使用量の維持 (有機溶剤使用量の削減。)	両面コピー及び裏紙の有効利用による紙の節約。	○
22		使用後のハンドラップ, 小分け容器及び一斗缶の蓋を確実に締める又は覆い, 蒸発を防止する。	○
23		適正な洗浄(時間, 量及び方法) を行い, 効率的に使用する。	○
24	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)	使用中, 廃液等の識別を明確に行い, 廃液混入を防止する。	○
		工程及び最終検査の不良率削減(0.15%)。	○

※ 結果・評価欄 凡例の説明 ○：予定通り実施  
△：進捗 50%以上  
×：進捗 50%以下



【放鳥され、佐渡の田んぼから飛び立つ朱鷺】

## 第6章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の順守状況を自らチェックし、違反はありません。
2. 関係当局からの違反の指摘はなく、訴訟もありません。
3. 外部からの苦情、要請等はありません。

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)	遵守評価
廃棄物処理法	許可業者に委託する	○
	必要事項を表示した 60cm×60cm 以上の掲示板を設ける	○
	産業廃棄物の飛散、流出、地下浸透、悪臭発散を防止する措置を講ずる	○
	許可業者に委託する。	○
	委託契約書には許可証の写しが添付されている。	○
	委託契約書は 5 年間保存する。	○
	産業廃棄物の種類ごとに交付する	○
	A 票を交付した日から 5 年間保管する	○
	B2、D、E 票の送付を受けた日から 5 年間保管する	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書を毎年 6 月 30 日までに知事に提出する	○
	交付日から B2 票と D 票は 90 日、E 票は 180 日以内に送付を受ける	○
	上記の送付がない場合は期限から 30 日以内に知事に措置内容等報告書を提出する	○
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書を毎年 6 月 30 日までに知事に提出する	○
水銀使用製品の適正管理(マニフェスト・掲示板に「水銀使用製品」を明記)する	○	
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	排出事業者は処理委託先で廃棄物が適正に処理が行われているかを確認し 記録する	○
工場立地法	敷地面積 9000 m <sup>2</sup> 以上は届け出 緑地面積 20%以上必要	○
	工場等増設の変更時に再届け出	○
使用済自動車の再資源化等に関する法律	引渡義務	○
消防法	屋内消火栓の設置	○
有機溶剤中毒予防規則	局所排気装置年 1 回の定期自主検査実施 記録の 3 年間保管	○
	業者による局所排気装置の年 1 回の定期検査実施	○
	測定結果へ意見を記録し、3 年間保管	○
毒物及び劇物取締法	健康診断を 6 ヶ月に 1 回実施し、記録を 5 年間保存、報告書を提出	○
	盗難防止の施錠	○
	貯蔵場所に「医薬用外劇物」の表示	○
環境基本法	事故、盗難及び紛失時の届出	○
	環境負荷の低減に資する原材料、役務の利用努力	○
家電リサイクル法	製品等の使用、廃棄時の環境負荷の低減に資する努力	○
	引渡義務	○
フロン排出抑制法	全ての業務用冷凍空調機器の簡易点検実施(3 ヶ月に 1 回)	○
	廃棄時に回収業者に引渡す	○
労働安全衛生法	化学物質のリスクアセスメントの実施	○
RoHS2 指令	製品への特定有害物質の使用規制対象：鉛、水銀、六価クロム、カドミウム、PBB, PBDE, DEHP, BBP, DBP, DIBP	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

## 第7章 代表者による全体評価と見直しの結果

### 1. 全体評価

目標6項目中1項目が未達成であった。未達成要因は、製造数の減少による比率(値)の上昇と考えられますが、総量では前年度比-12%と使用量は減少しております。2024年度(49期)は中期計画の3年目であり、環境経営目標の“生産工程の不良率低減し廃棄物を削減する(SOC管理の体制を維持)”以外は前年度又は基準年度の実績を基準値として、削減または維持の計画を立て目標を達成する活動を実施致します。

点検項目	代表者による評価及び見直し等の指示事項	見直し後 変更の必要性	
環境経営方針	代表者の役職変更に伴い、「代表取締役専務」から「専務取締役」に変更。	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
環境経営目標	2024年度(49期)の環境経営目標の設定は、2023年度(48期)に見直した内容に基づき、定められたとおり、中期目標の3年目を進めていく。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
環境経営計画	環境経営目標の達成に向けた活動計画として基本的な事項が定められており、計画通り進めていく。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
実施体制	実施体制については、活動内容に変化がないため現状の体制を維持する。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	
経営システム 他	法令遵守	法令遵守は社会の基本的事項であり、今後とも制定・改廃の動向を把握し、遵守状況を確認していく。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	苦情等対応	苦情なしが継続できるよう、普段の事業活動において配慮していく。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	是正予防措置	原因・要因を分析するとともに全員に周知し、是正措置の徹底を呼び掛けていく。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
	課題とチャンス の反映	『外部内部の課題、利害関係者、外部提供者、リスク及び機会への取り組み』が活動内容に反映されていることが確認できている。	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

代表者による課題とチャンスまとめ表

項目	事業者の内部に起因するもの	事業者の外部に起因するもの
経営における課題 (事業上の弱み、問題点等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務の継承</li> <li>・設備・備品の老朽化</li> <li>・外注先の見直しに伴う製品価格の上昇</li> <li>・自社製品の改善改良</li> <li>・生産性の向上／業務効率改善</li> <li>・DXを活用したビジネスモデルの構築</li> <li>・環境経営活動の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料及び仕入品の納期</li> <li>・外注先の不安定化リスク</li> <li>・市場の変化と縮小</li> <li>・為替変動のリスク</li> <li>・REACH規制等の対象物質増加</li> <li>・新規施行法規への対応</li> </ul>
経営におけるチャンス (事業上の強み、有利な点等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コストダウンの一環として、改善提案活動を実施</li> <li>・生産性の向上／業務効率改善により更なる利益率の向上を図る</li> <li>・原価管理による粗利益の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新市場の開拓(展示会、ICTの活用)</li> <li>・顧客の信頼性向上(EA21活動)</li> <li>・成長市場及び新規市場の開拓と売上の伸長(気自動車等のリチウムイオン電池の充放電装置向けに弊社のシャント抵抗器を積極的に販売)</li> </ul>

## 第8章 来年度の環境経営目標と環境経営計画

### 1. 次年度〈2024年度(49期)〉環境経営目標及び取組内容

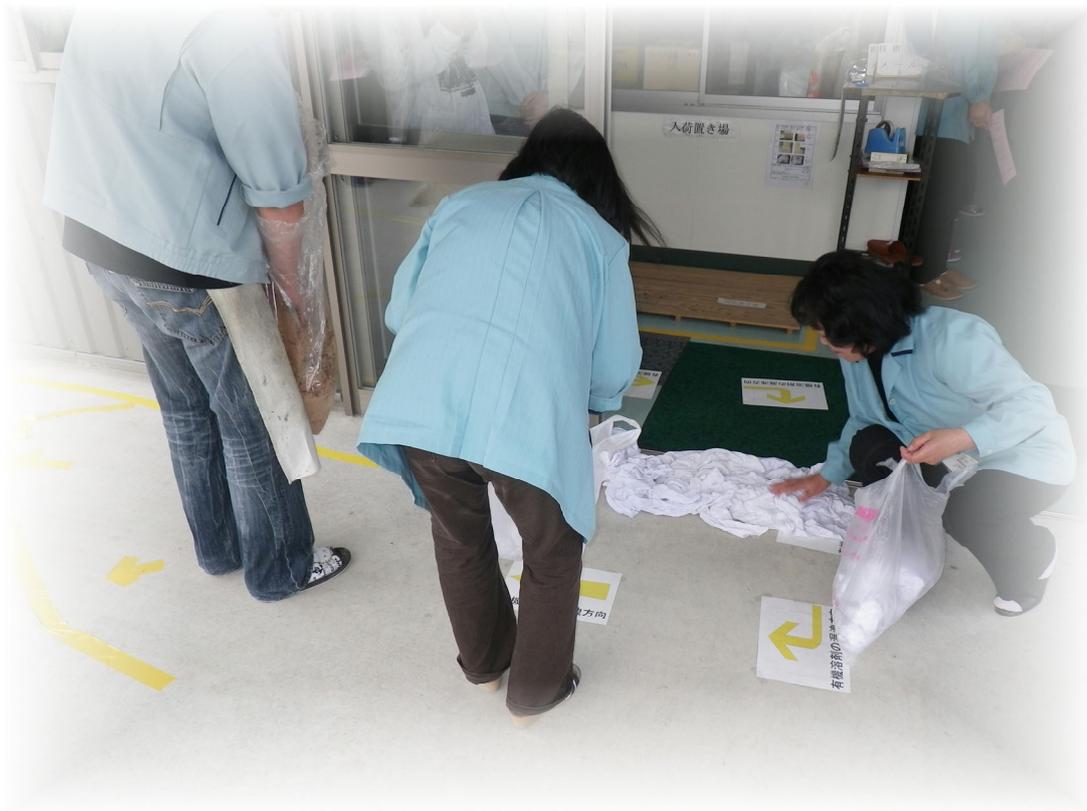
No.	項目	基準年 (2021年度)	目標値	具体的な達成手段
(1)	二酸化炭素排出量の削減削減(総量)	99,311 kg-CO2	96,332 kg-CO2 3%以上削減	① 廃プラに混在する新聞紙を分別する。 ② 分別を推進し、銅、アルミ等の再資源化をはかる。 ③ 製品切替(RH→FH)による成形条件見直しにて、ポットに残る樹脂量を低減。 ④ 再利用段ボール箱の社内便への使用。 ⑤ 使用済み段ボール箱の梱包材への再利用。 ⑥ 梱包材等の古新聞紙を再生利用へ。
(2)	廃棄物の削減 (生産・販売個数当たり)	6.020 g/個	5.839 g/個 3%以上削減	① 廃プラに混在する新聞紙を分別する。 ② 分別を推進し、銅、アルミ等の再資源化をはかる。 ③ 製品切替(RH→FH)による成形条件見直しにて、ポットに残る樹脂量を低減。 ④ 再利用段ボール箱の社内便への使用。 ⑤ 使用済み段ボール箱の梱包材への再利用。 ⑥ 梱包材等の古新聞紙を再生利用へ。
(3)	水使用量の維持 (人数当たり)	10.5777 m <sup>3</sup> /人数	10.5777 m <sup>3</sup> /人数	① ポスターによる節水の啓蒙。 ② 水洗トイレのタンクへペットボトルを入れ、トイレ用水を節水する。 ③ 便器(男性)の水排出時間を短くする。
(4)	コピー用紙使用量の維持 管理(総量)	342.098 kg	342.098 kg	① ポスターによる紙節約の啓蒙。 ② プロジェクター等の使用による会議資料のペーパーレス化を推進。 ③ 電子メディア等の利用によるペーパーレス化の推進。 ④ 両面コピー及び裏紙の有効利用による紙の節約。
(5)	化学物質使用量の維持 管理(生産個数当たり)	2022年度の実績を基準 0.87831 g/個	0.87831 g/個	① ハンドラップ、小分け容器及びびん・缶の蓋を確実に締める又は覆い、蒸発を防止する。 ② 適正な洗浄(時間、量及び方法)を行い効率的に使用する。 ③ 使用中、廃液等の識別を明確に行い、廃液混入を防止する。
(6)	生産工程の不良率低 減し廃棄物を削減す る	0.15%以下 (品質目標)	0.15%以下	① ISO9001の目標値に連動した削減活動並びに品質会議にて問題抽出し対応を実施する。 ② 製品含有化学物質(SOC)の管理体制を維持。

### 2. 環境経営計画

今後もPDCAサイクルを回した上での、維持及びレベルアップを図っていきます。

## ※環境経営活動状況(画像)

### ○緊急事態対応訓練



### ○緑地保全活動



以上